

令和4年度シラバス（地歴）

学番 28 新潟県立村上桜ヶ丘高等学校

教科（科目）	地理歴史（地理 B）	単位数	4	学年	2年
使用教科書	新詳地理 B（帝国書院） & 新詳高等地図（帝国書院）				
副教材等	フォトグラフィア地理図説（東京法令出版）				

1. 学習目標

- ・世界の国々の自然・社会環境を学習することにより、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。また日々の出来事がどこで発生しているのか、理解できるように、空間認識を深めさせる。
- ・地図帳を多用することで、地図作業などを通して、地理的空間認識をたかめる。
- ・地域調査を通して地域の発展の方向性や問題点を認識できる力をつけさせる。

2. 指導の重点

- ・白地図作業・地図作業を通して参加型・探究型の授業を目指す。
- ・副教材を多用し、視覚に訴える内容を目指す。
- ・小テストやレポートの課題により知識の定着を図る。

3. 指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	自然環境	地形から見た世界（大地形・小地形） 生活との関わり	世界の大地形 小地形小地形との関わり	白地図を利用し作業学習が中心となる インターネット地図 情報投影 地形図 読図など	12	大地形では地名を覚えさせる 地形図読図能力
5	自然環境	気候分布→ 地図帳・白地図を利用	気候要素・因子 ケッペンの気候区分	世界の気候を大局的に把握させる。 各気候の特徴と人間生活	13	気候データから気候区分を判定させる。
6	資源と産業	農業から見た世界	ホイットルセーの農業区分を使って	各農業区分の内容を理解させる。	14	それぞれの農業分布・内容を理解させる。
6 7	資源と産業 都市と村落と生活文化	エネルギー・原料資源から見た世界・工業から見た世界 都市と村落から見た世界	各エネルギー資源について・原料資源について 工業分布 都市の発達と問題 村落の機能と形態	地域のエネルギー消費の特性 それぞれのエネルギー資源の需要と供給 工業地域・分布 都市の発達と問題 村落の機能と形態	14	各エネルギー資源の特性を把握させる 工業の偏在生を理解させる 都市問題の理解・村落形態の理解
9	地誌的考察	市町村的規模の地域	フィールドワーク・地形図を読む 外国の都市を調べる	地形図読図・市内の歴史的形成（城下町のなごり）外国の都市との比較	14	ヨーロッパ中世都市を調べ比較させ
10	地誌的考察	州・大陸的規模の地域	すべての地域についての地誌	地誌的な調べ方の指導	14	提示された資料を活用できているか 各大陸の地誌を理解できたか

11	諸課題の地理的考察の視点	図化することの意味 近隣諸国と日本	各種主題図の特性 韓国・中国・ロシア	主題図作業 作成した主題図から事象を読む 各国誌と日本の比較	14	実際の作業を通して地域的事象を考察させる 違いを考えさせる
12	現代世界の諸課題	環境・エネルギー問題の地域性	世界の環境問題・エネルギー問題	多様な環境問題と地域における問題発生の差異。経済格差とエネルギー問題	13	環境問題の基礎知識から問題点を考えさせる。
1	現代世界の諸課題	人口・食糧問題	人口爆発。少子高齢化社会	人口や食糧の問題は経済発展と大きく連動している	13	それぞれの地域の人口・食糧問題からどう行動するか考えさせる。
2	現代世界の諸課題	民族・領土問題	民族問題 領土問題	民族とは。世界の宗教・言語 民族差別 国家の領域。世界の領土問題	13	多様な民族がいること。多様な文化があることを把握させる。
3	国家間の協力	貿易 国家群	国際貿易で成り立つ世界 冷戦から国家群へ	資源輸入国・製品輸入国・モノカルチャー経済など いくつかの国家群を取り上げて	6	身の回りの輸入品を知る。国家間の協力を理解させる

計 140 時間 (50 分授業)

4. 課題提出物等

白地図作業の課題 小テストをたくさんやるので家庭での勉強 必要に応じてノートの提出 調べ学習によるレポートなど

5. 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
○地理的事象に対する関心を高め、歴史上の諸課題について問題意識を持って意欲的に追究している。	○ 地理的事象から課題を見だし、多面的・多角的に考察している。 ○ 諸課題について、地理的条件と関連付けながら、国際社会の変化を踏まえて公正に判断している。	○ 地理的事象についての諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択する力がある。 ○ 資料や情報を効果的に活用することを通して地理的事象について追究する学び方を身に付けている。	○日本と世界の生活・文化の特色についての基本的な知識を身に付けている。 ○世界各地の地理的条件を自然と関連付けながら理解している。
【評価方法】 考査の点数 ・課題提出・授業態度	【評価方法】 考査の点数 ・課題提出・授業態度	【評価方法】 考査の点数 ・課題提出・授業態度	【評価方法】 考査の点数 ・課題提出・授業態度

以上の観点を踏まえ評価する。

6. 担当者からの一言

数理解解が必要になるので、理科や数学が好きな生徒は学習しやすい科目です。センター試験で理系を目指す生徒は点数が取りやすいと思います。

世界の多くの国を知ったり日本の地理的な基礎知識は社会に出て直接的に役立つ知識です。いろんな風景を見てその成り立ちを考えたり、外国へ行って違う文化にふれることは自分を成長させます。楽しくかつ真剣に勉強しましょう。

